jaam007-00083

脂肪由来幹細胞培養上清点滴投与後にシバリングを伴う発熱を認めた2症例

〇村西 寛実[1,2]、小村　泰雄[1,2]
[1]医療法人京都紀隆会京都御池メディカルクリニック 、[2]医療法人紀隆会 りんくうメディカルクリニック

（はじめに）
幹細胞培養上清を用いた点滴治療はアンチエイジング目的や各種疾患に対する治療として自由診療クリニックを中心に実施されておりその安全性は高いとされているものの明確なデータは存在しないという現状がある。今回、我々は脂肪由来幹細胞培養上清点滴後にシバリングを伴う発熱を認めた2症例を経験したため考察を踏まえ報告する。
（症例1）脳梗塞既往歴のある70歳代後半の女性。左内頸動脈プラークが以前から指摘されており脳梗塞後後遺症に対し十分な理解および同意を得たうえで脂肪由来幹細胞培養上清点滴10mlを開始した。2週間に1回のペースで計13回の点滴を継続し、左頸動脈プラークの縮小を認めていた。14回目の点滴後、悪寒を伴う微熱を呈したが保温にて軽快し帰宅となり翌日以降は発熱を認めずに経過した。
（症例2）痛風の既往歴があり現在は無投薬で尿酸値は正常化している50歳代前半の男性。十分な理解および同意を得たうえでアンチエイジング目的に脂肪由来幹細胞培養上清点滴20mlを2週間に1回のペースで継続中であったが23回目の投与終了10分後に強いシバリングを伴う38℃の発熱を認めた。保温にてシバリングは軽快したものの発熱が持続したため解熱剤を処方し慎重に経過観察としたところ翌朝には自然軽快しておりその後は問題なく経過した。
（考察）
今回の2症例に用いた脂肪由来幹細胞培養上清が同様のロットであったこと、2症例とも類似した経過を辿ったこと等から原因精査が必要と判断し使用を一切中止とした。現在、今回使用した脂肪由来幹細胞培養上清点滴を製造作成している企業にて精査を進めており一般細菌、エンドトキシンは共に陰性であったもののアンモニア、TNF-α、IL-6について結果待ちの状況にあるためそれら結果も踏まえたうえで原因に関する考察を報告したいと考える。
（結語）
幹細胞培養上清点滴の安全性については不明な点が非常に多く十分な検証および患者への十分なインフォームドコンセントのもと使用していくことが重要である。